

インターン活動報告書

文責 川合 裕己

1. はじめに

2021 年の 7 月から 2022 年の 6 月まで、現地駐在インターンとして活動に携わらせて頂きました、東京大学大学院農学生命科学研究科修士一年の川合裕己と申します。コロナ禍という難しい状況にも関わらず、開発協力の最前線を経験することができたこと、そして小さい頃からの憧れであったアフリカの地で 1 年間暮らす経験ができたこと、その機会を与えてくださった、木村理事長をはじめとする道普請人の皆様に、心より感謝の意を表します。瞬く間に過ぎていった 1 年間でしたが、ウガンダ・ルワンダ・ケニア 3 カ国で過ごした毎日は、新しい発見や学びの連続であり、かけがえのない濃密な時間でした。

拙文ではありますが、記憶を記録に留めるべく、私の経験の一部をここに書き記したいと思います。

2. 活動詳細

2.1 日本 NGO 連携無償資金協力（通称：N 連）

ウガンダ事務所、ルワンダ事務所それぞれの主要事業である N 連事業では、「土のう」を用いた道直し活動を中心に、労働グループの設立サポートや、土のうを使った斜面の地盤強化活動を行っています。この事業を通して、申請書・予算表の作成から、現場監督、施工管理、フォローアップ、総括ワークショップ運営、完了報告書作成に至るまで、一連の流れを経験させて頂きました。どのサイトも新たな訓練生との出会いや、風土、言語の違い等の面白さが沢山ありましたが、特に印象に残っているウガンダ東部マユゲ県での道直しの様子を以下に添付致します。



Fig.1 施工前の道路状況



Fig.2 施工後の道路状況



Fig.3 訓練修了証を手に喜ぶ訓練生たち



Fig.4 毎日のお楽しみランチ

このサイトは地下水位が高く、両脇にあるサトウキビ畑からの流水によって容易に氾濫が起こり、実際に冠水している箇所がいくつかあるような施工の難しい場所でした。

(Fig.1) そのため専門家に日本からの遠隔指導をお願いし、さらに普段は 25 人の訓練生を 50 人に増やし、人海戦術で対応しました。それまでの施工地でも道直しの現場を見る機会はありませんでしたが、完全に通る事の出来なくなった道が、人々の力によって再び通ることができる様になる瞬間を目にすることができたのは、マユゲ県が初めてであり、それゆえにとっても印象的な活動地でした。(Fig.2)

また、日本人としての自分の立ち位置を考え直した活動地でもありました。初日は訓練生たちにあまり馴染めず、ただ写真を撮り、専門家のアドバイスを現地エンジニアに伝えるだけでしたが、これではいけないと 2 日目以降は気持ちを切り替え、訓練生と一緒に土のうを作り、同じカマの飯を食い、汗水流して活動に参加するよう気持ちを入れ替えました。その結果、自分の中に「当事者」意識が芽生え、「この道を彼らと一緒に直すぞ!」という気持ちのもと、最後まで活動に臨むことができました。訓練生もそんな自分をメンバーの一員として温かく迎え入れてくれ、毎日の美味しいお昼ご飯と、現地の名前 (Ngobi: マユゲ県に多く住むバソガ族の王子様の名前) をプレゼントしてくれました。現場での立ち居振る舞いには色々な形があるかと思いますが、私にはこの形がっていると強く感じています。

ルワンダでは、中央部カモニ郡・南部フイエ郡・南部ニャンザ郡にて、道直しフォローアップに参加させて頂きました。ウガンダでの経験があったため、現場がどう動くかはある程度分かっていたものの、完成されたチームに入っていく難しさを改めて感じ、自分の居場所探しに戸惑った時間でもありました。さらに、フォローアップ事業であった

にも関わらず、前回実施時の様子や、各ポイントの課題点等を十分に理解せずに現場に入ってしまったため、状況を把握するだけで時間が過ぎてしまった出張もありました。しかしながら、千葉さんを初めとしたルワンダ事務所の皆様の明るい雰囲気のお陰で、少しずつ自分の出来る仕事が増え、事務所内での立ち位置を作り出すことができました。特に千葉さんのアイデアのもと行った、ニャンザ郡での「土のう工法の歌」レコーディングでは、CORE エンジニアの書いた歌詞に、訓練生が演奏したミュージックを乗せ、現場での作業風景と共に、素敵なビデオを作成することが出来ました。「自分が得意なこと、好きなこと、楽しいことを皆が持ち寄って、そしてチームとして何かを生み出すことが組織の理想的なあり方だよ」、という千葉さんのお言葉が、今でも心に残っています。

2.2 グローバルフェスタ JAPAN 2021

「日本最大の国際協力イベント」とも称されるグローバルフェスタ JAPAN では、ケニアのナイロビ日本人学校と東京会場とを繋ぎ、「土のう」を用いた道直し活動の現場中継を行いました。

9月にこのイベントに関するお話をいただいてから、パートナー団体であるILO（国際労働機関）の担当者の方と週一回の頻度でミーティング行い、綿密に準備を重ねました。このイベントは初めて自分が立ち上がりから直接関わることでできたイベントだったため、一つの事業を「作り上げる」という経験を得ることができました。また、いざ現場に入ってみると、現場でなんとかする力の必要性を再認識しました。道直し中継に参加して下さった、「現地で活躍するちんどん屋“One Man Band”・マサイの方々・羊の群れ」は現場の雰囲気をより魅力的に伝えることを目的に、前日・当日のリハーサル時に急遽配役をお願いしました。事前の周到的な用意と、現場での臨機応変な働きによって、魅力的なものを生み出すことができると学んだ経験でした。私もイベント内で「土のう工法」の手順を説明する時間を頂きました。画面の向こうで何百人もの人がいると考えると少し緊張しましたが、ケニア事務所スタッフや現場の訓練生の温かな協力もあり、無事に役目を果たすことができました。このイベントは日本にいる家族・親戚に対して、自分がアフリカでどのような活動をしているのかを視覚的に伝えることでできた時間でもあり、有意義なものとなりました。幼い頃からの憧れの国であったケニアに仕事として訪れることが出来たことは、今後の人生における、貴重な経験です。



Fig.5 東京会場の様子



Fig.6 土のう工法紹介



Fig.7 現社長の元訓練生とマサイの方々



Fig.8 CORE Kenya 事務所の皆様

2.3 UNDP（国連開発計画）事業「難民&受入コミュニティ支援事業」

ウガンダは世界第4位の難民受け入れ大国であり、約150万人（2022年6月時点）の難民が生活しています。特に北部で国境を接する南スーダンからの難民が多く、難民とその受入コミュニティに対する迅速な生活のサポートが必要とされています。このような背景のもと、ウガンダ北部アジュマニ/オボンギ県にて実施しているUNDP事業では、道直し・植林・省エネかまど作りを通じた雇用機会の提供及び、小規模ビジネス立ち上げ支援活動を行っています。支援団体が入り過ぎているが故の「支援慣れ」や、自分の生まれた場所ではない地域での「道普請活動」にはこれまでの活動地とは違った難しさがありました。道普請人の活動理念である、「自分たちの道は自分たちで直す」という気持ちを、難民の方々に持ってもらうために、どのようにアプローチできるのかということを考えながら活動に臨みました。

また、「難民」と呼ばれる方々と直接活動を行う貴重な機会でもありました。彼ら・彼女らにはそれぞれの生活があり、自分の物差しで判断することは失礼だと思いつつ

も、改めて「日本」という国に生まれただけで、自分がいかにチャンスや経済的な面で機会が豊富にあるかを痛感する時間でした。さらに、彼らの居住地は部族ごとに分かれており、「こちらの部族は〇〇だけど、あちらの部族は△△だから…」と活動への意欲や支援の受け入れ体制も部族によって異なるという意見を聞きました。「部族」一つを切り取っても、その意識が強くあるウガンダ・ケニアと、部族という区切りを無くし、「一つのルワンダ国民」として過去を乗り越えようとするルワンダとで、違った物の見方がありました。

一つの事業の中で、「難民問題」や部族間の軋轢、そして開発援助のあり方を考えることのできた、思い出深い事業です。



Fig.9 グラント（ヤギ）引き渡し式



Fig.10 ナイル川を船で渡って事業地へ

2.4 広報活動

現場での活動報告写真や動画の撮影だけではなく、現地ニュース動画の字幕挿入やショートムービー作成、SNS 運営やチラシ・カレンダー制作等、なんでも屋さんの様な形で、色々な活動を任せて頂きました。特に団体活動を紹介するショートムービーは N 連事業総括ワークショップや JAPAN コンストラクション国際賞授賞式内で、参加者全員に見ていただく機会があり、これまで全く挑戦したことのない分野ではあったものの、非常に貴重な経験をさせて頂きました。また、現地の Web サイト制作会社の方に全面的にサポートをして頂きつつ、CORE Uganda の Website も大幅にリニューアルしました。現場での活動は、それを支える沢山の仕事があって初めて成り立つのだと実感しました。

3. 終わりに -東アフリカでの 1 年間を通して

改めて、未熟な一端の大学院生に、様々な機会を与えて頂き、仕事を任せて頂き、本当にありがとうございました。1 日 1 日を乗り越えて行くことに精一杯でしたが、振り返ってみると、1 年前には微塵も想像していなかった日々を過ごしていることに驚きます。頂いた恩は、これからゆっくりお返し出来たらと思います。

この 1 年間を通し、ウガンダを中心に東アフリカを縦横無尽に探検し、数えきれないほどの経験をさせて頂きました。なんとなく“開発協力に携わりたい”と考えていたものが、明確になってきたように思います。アフリカの大自然は想像を遥かに超えるものであり、物語の世界だと思っていたライオンキングの世界は実在しました。「この壮大な自然をこれからの世代にも伝えていくために、そこに生きる人々と同じ視点を持ってより良い世界を目指す」、これを私の将来の軸としたいと考えています。

NGO 職員として働くことの面白さと厳しさを学びました。

ビジネスの力で国際協力を、というのが最近の潮流のように思いますが、改めて草の根的な国際協力の底力を感じました。どうやって資金を得るか、説得力のあるプロポーザルを書くか、分かりやすい報告書を書くか。住民の為、彼らの将来のためを思うと、数値的な指標ではないところも評価して欲しいと時に思うこともありましたが、それを如何にしてドナーに理解してもらうかは、知識だけではなく、熱量のいる仕事だと感じました。また、岩村さんの隣で 1 年間一緒にお仕事できたことは、とても貴重な経験でした。N 連事業や民間企業の CSR 事業だけではなく、世界銀行・ILO・UNDP といった国際機関との仕事も同時に捌き、各国の政府高官と熱い議論を交わすその姿に、いつも背中を押されました。これからも背中を追いかけて精進したいと思います。また、仕事だけではなく、プライベートでもいつも気にかけてくださり、カンパラ中の美味しいレストランや、ゴルフ、乗馬、サファリ、ビクトリア湖クルーズなどなど、思い返すときりが無い程、沢山の思い出を頂きました。本当にありがとうございました。

“当たり前”は当たり前ではないし、“当たり前”だと思っていたことも一瞬で変わってしまうことを知りました。

訓練生が 1 時間で得られるお金は 100 円にも満たないほど。(その地域の平均収入や他 NGO の同様の活動を考慮した上での数値)それでも彼らにとっては貴重な収入です。時給 100 円で子どもが沢山いる家庭を支えて、ウガンダの田舎の村で一生を終える。

それが彼らにとっては当たり前で、それで生きていけるから、いいじゃないとも思いますが、やはり複雑な気持ちは隠せません。

また、私たちムズング（肌の白い人の意）は、新型コロナで仕事を失い、悪に手を染めてしまった人たちの格好の標的となりました。路上でひったくりにあったり、家に強盗に入られたり、昨日まで一緒にウガンダで過ごしていた友人が事件に遭い、急に日本に帰ることになった事もありました。カンパラでの爆破テロは、ニュースの世界の出来事が、自分の住む世界とリンクした瞬間でした。

物価の差というものには非情な事実を突きつけるものです。私たちと同じ分だけ働いても、彼らが今の私のように、飛行機に乗って外国を訪れ、色々なものを食べ、様々な景色を見て、地球をもっと楽しむなどということは、きっと一生無いのかもしれませんが、日本に生まれた時から既にラッキーだ、と言葉では「そうなのかもなあ」と感じていましたが、この恩恵を私たち日本人は十分に活かし、そして還元できているのかと考える毎日でした。

でもそれが彼らにとっての“当たり前”で、無理に変える必要のあることでもない。だからこそ、彼らと過ごす目の前の瞬間に真摯に向き合うこと、そして「何を目指して」開発協力を行うのか、という問いに対して、自分なりの答えをもつことを大切にしていきたいと思います。

大変なこと、頭を悩ませること、心配になることも沢山ありましたが、それらを全て忘れさせてしまうほど、東アフリカはパワーのある場所でした。訓練生たちの純粋な笑顔や仕事への熱意、路上マーケットの熱気、バイクタクシーのおじさんたちとの値段交渉、甘くて美味しいフルーツ、見たことのない鳥や昆虫、地平線まで広がるサファリの草原。どの一瞬を切り取っても絵になるような、色鮮やかな日々でした。

大学院への復学後は、自分の専攻である水環境管理の勉強を深めつつ、環境と開発との両立、さらには「雇用」にも興味を広げて、勉学に励みたいと思います。その後の進路はまだ未定ではありますが、この1年間を通して深く感じた「現場の第一線で活動することの魅力」を仕事にするべく、日々精進したいと思います。

まだまだアフリカには知らないことも行ってみたい場所も沢山あるので、また必ず戻って来たいです。

1年間、本当に貴重な時間を過ごさせて頂きました。ありがとうございました。

4. 活動概要

日付	内容
7月2日	ウガンダ 生活開始
7月-	N連申請書執筆
8月9日～8月20日	N連：シロンコ県 道直し訓練
8月30日～9月1日	N連：カリ口県 道直し訓練
9月8日～9月10日	N連：カリ口県 道直し訓練・閉会セレモニー
9月15日	TOTO 水環境基金：Bussi 島 現場活動視察
10月2日～10月13日	ケニア 出張：グローバルフェスタ Japan ナイロビ現地中継
10月20日～10月30日	N連：マユゲ県道直し訓練
11月8日～11月13日	N連：2年次フォローアップ カバロレ県・カセセ県
11月23日～11月24日	トヨタ環境活動助成事業：ブドゥダ県 環境保全活動
12月7日	N連事業総括ワークショップ
1月12日	ルワンダ 生活開始
1月18日	N連：カモニ郡フォローアップ
1月23日～1月29日	N連：フイエ郡フォローアップ
2月9日～2月10日	N連：ニャンザ県フォローアップ 土のう工法の歌レコーディング
3月26日	ウムガンダ（国民奉仕の日）イベント
4月4日	ウガンダ生活再開
5月17日～5月20日	UNDP：北部アジュマニ・オボンギ県 Exit Meeting
6月6日～6月10日	UNDP：北部アジュマニ・オボンギ県 Grant 引き渡し
他	事業完了報告書作成（TOTO, MOFA3年次） 事業申請書/コンセプト作成（MOFA, JSB, TOTO, 経団連） 広報活動（SNS運営, 広報資料・動画作成, HP立ち上げ） バングラデシュ事業（JICF, 10月～）

5. 訪問地域

